

# 県立観音崎公園再生計画(案)



2012(平成24)年10月

神奈川県横須賀土木事務所

## ○ 計画策定の目的

県立観音崎公園は、都心から一時間の距離にあって、海から森へと続くまとまりのある貴重な自然と豊かな歴史に恵まれた公園です。明治13年に陸軍が首都圏防備の要塞とされたものを、昭和31年に公園として計画決定し、昭和45年から施設整備を始め、昭和50年には60haをオープン、平成14年には現在の東京ドーム15個分となる70haをオープンしました。今では東京・埼玉方面からの利用客も含み、年間82万人が公園を利用しています。

しかし、公園整備から40年が経過し、園内には老朽化した園路や休憩所、サインといった施設が多数あります。また、公園入口で民間企業が営業するレストハウスも整備から38年が経過し、その周りの公園バスロータリーも老朽化が進んでいます。こうした中、平成18年には指定管理者制度が導入され、県予算と公園駐車場収入によって民間企業が公園の運営管理を開始しました。

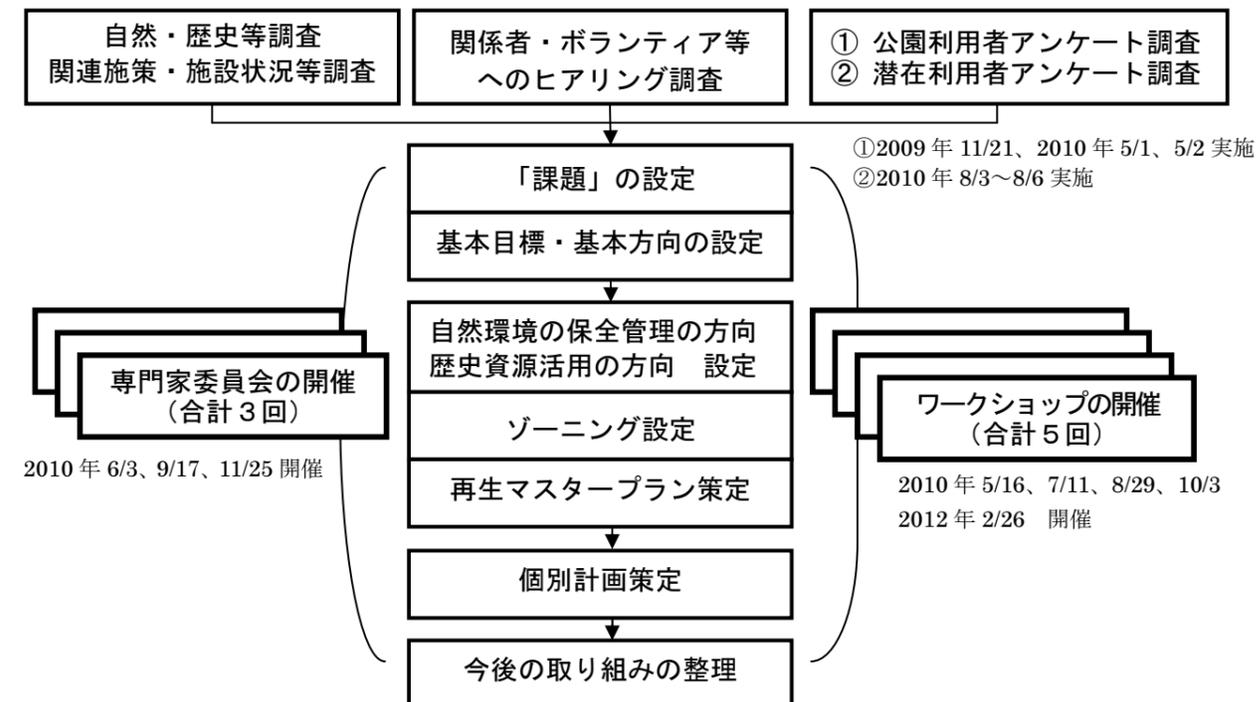
平成19年には園内に横須賀市が運営する美術館がオープンし、平成21年には近傍まで横浜横須賀道路が延伸され、都心とのアクセスが向上しております。一方、平成23年には園内で県青少年課が運営する青少年宿泊施設の運営が廃止されました。

また、公園をとりまく社会環境も変化の激しい時代を迎え、公園整備当初に比べてバリアフリーへの対応や防災機能の向上、県民協働、環境保全、環境教育への対応、観光振興、施設の長寿命化、循環型社会への対応へのニーズが高まっています。

そこで神奈川県では、公園の現況とそれをとりまく社会環境の変化に対応し県立観音崎公園を効率的で効果的に再生するため、再生計画を策定することとしました。計画の策定にあたっては、基礎調査として公園及び周辺の自然・歴史・既存施設の調査と、公園の利用実態調査や、公園の既存・潜在利用者のニーズ調査、また、関係者からのヒアリング調査等を実施しました。

そして、それらの調査結果を県民参加によるワークショップや専門家委員会で情報共有し、意見交換をしながら、計画の策定作業を進め、このたび「県立観音崎公園再生計画（案）」としてとりまとめました。

### 計画策定のフロー



## 目 次

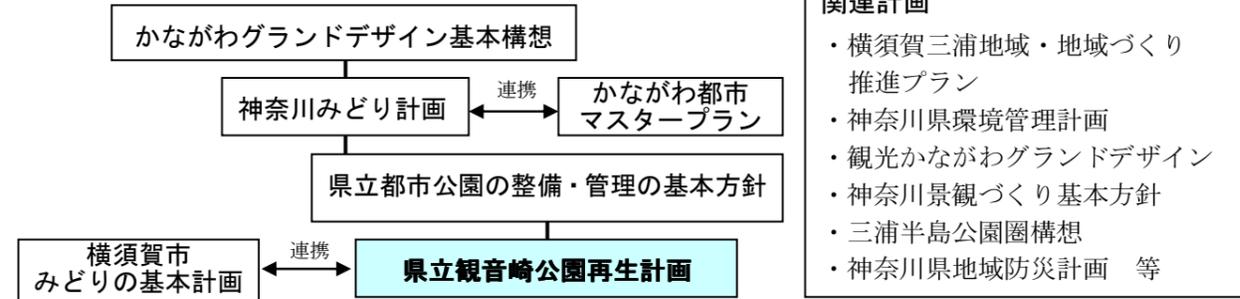
	頁
<b>第1章 公園をとりまく社会環境と公園の現況</b>	
1-1 社会環境	1
1-2 公園へのニーズと利用実態	2
<b>第2章 基本目標と基本方向</b>	
2-1 計画のプロセス	3
2-2 基本目標と基本方向	4
<b>第3章 基本構想</b>	
3-1 自然環境の保安全管理の方向	5
3-2 歴史資源活用の方向	6
3-3 利活用イメージのゾーニング	7
3-4 再生マスタープラン	8
<b>第4章 個別計画</b>	
4-1 景観管理計画	9
4-2 施設整備計画	10
4-3 域内交通計画	11
4-4 観光利用計画	12
4-5 パークマネジメント計画	13
(1) パークマネジメントの体制	
(2) パークマネジメントの全体体系	
(3) 利用の拠点ごとの利活用方法のバランス区分	
(4) イベントプログラム	
<b>第5章 再生計画（案）の実現に向けて</b>	17
<b>巻末資料</b>	
○ 県立観音崎公園再生計画づくり専門家委員会の構成と県民参加の状況	
○ 専門家委員会とワークショップの開催スケジュールと内容	
○ ニュースレター	

# 第1章 公園をとりまく社会環境と公園の現況

## 1-1 社会環境

神奈川県は、今後、人口減少と少子高齢化をはじめとする変化の激しい時代を迎えます。また、2011年3月11日の東日本大震災の発生により、都市の防災機能の向上は喫緊の課題となっております。2010年には名古屋でCOP10（締約国会議）が開催され、「里山イニシアティブ」等の生物多様性の保全とその持続的な利用確保のための方策が打ち出されました。そして、民間活力の導入による公共サービスの質の向上や効率化を図ろうとする動きも大きくなっておりま。

### (1) 計画の位置づけ

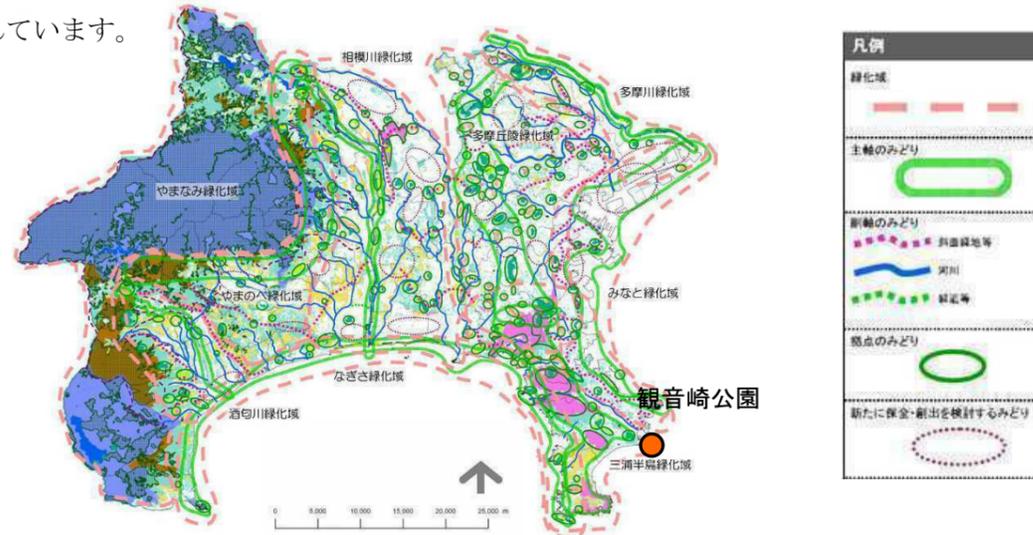


### (2) かながわランドデザイン基本構想（平成24年3月、旧・神奈川力構想）

三浦半島地域圏は、『首都圏における貴重なみどりと三方に広がる海、豊かな歴史的文化遺産、美しい景観など三浦半島がもつ地域資源を保全し、これを活用することにより、うるおいをもって快適に暮らせるようにするとともに、首都圏や海外からも多くの人々が訪れ、楽しめる「公園」のような魅力と活力にあふれる地域づくりをめざす』と位置づけられています。また、当公園については、都市公園の整備により、“みどり”と“うみ”の保全と活用などに取り組むこととなっています。

### (3) 神奈川みどり計画（平成18年3月）

みどりの保全・再生・創出の基本方針では、県内を9つの緑化域に分け、水とみどりのネットワーク構想を示しています。当公園は、みなと緑化域における南端のみどりの拠点として位置づけられています。



神奈川みどり計画（平成18年3月）より

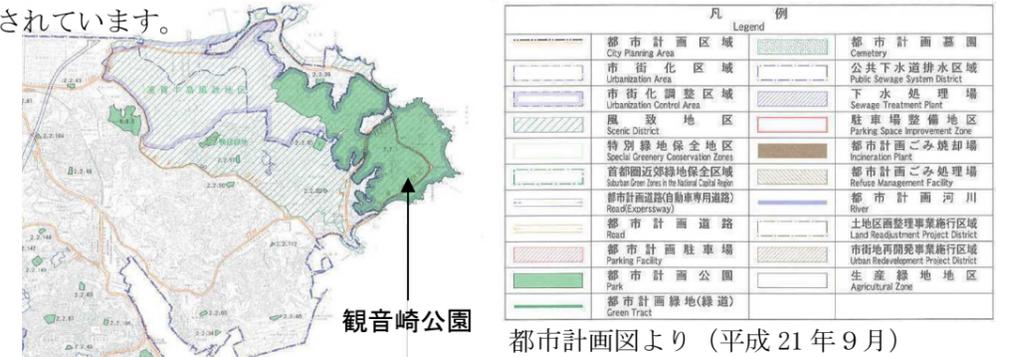
### (4) 神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針（平成23年3月）

県民生活を豊かにする公園づくりを目指して、公園づくりの基本方針を設定しています。

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| I 自然環境の保全と活用         | (1) 生態系や生物多様性への配慮    |
| II 災害対応とバリアフリー化の推進   | (2) 地球環境問題等への地域からの対応 |
| III 地域活性化への貢献        | (3) 緊迫する自然災害への対応     |
| IV 効率的で効果的な公園整備とサービス | (4) 誰もが楽しめる公園づくり     |
|                      | (5) 歴史や文化の継承と創造      |
|                      | (6) 地域と一体となった魅力の向上   |
|                      | (7) より良いサービスの提供      |
|                      | (8) 多様な主体との連携        |
|                      | (9) 既存公園の再生          |
|                      | (10) 骨格となるみどりの確保     |

### (5) 都市計画上の位置づけ

当公園は 77.9ha が都市計画公園として位置づけられています。また、公園内および公園周辺は風致地区に指定されています。



都市計画図より（平成21年9月）

### (6) 防災計画上の位置づけ

平成21年度に改定された「横須賀市地域防災計画」では、約4千人が園内の横須賀美術館周辺エリアに避難してくる「広域避難地」となっており、第2駐車場は災害時の「ヘリコプター臨時離着陸可能地」となっています。



### (7) 観光計画上の位置づけ



当公園は、主要な観光拠点として位置づけられています。

### ■ 周辺主要観光施設の現況入り込み客数

・ 県立観音崎公園	約 105 万人	横須賀美術館 約 23 万人 観音崎灯台 約 4.3 万人 観音崎自然博物館 約 2.4 万人 その他園内 約 75 万人
・ 三笠公園	約 100 万人	
・ 猿島公園	約 11 万人	
・ ソレイユの丘	約 66 万人	
・ 東京湾フェリー	約 110 万人	※ 平成21年度 「神奈川県入込観光客 報告書」より (別に、観音崎公園独自で美術館等を 除いて毎日積算した入込観光客数デ ータもあり、本計画策定上はそちら のデータを使用している)
・ 横須賀市	約 670 万人	
・ 鎌倉市	約 1,900 万人	

## 1-2 公園へのニーズと利用実態

### 当公園を訪れる人々

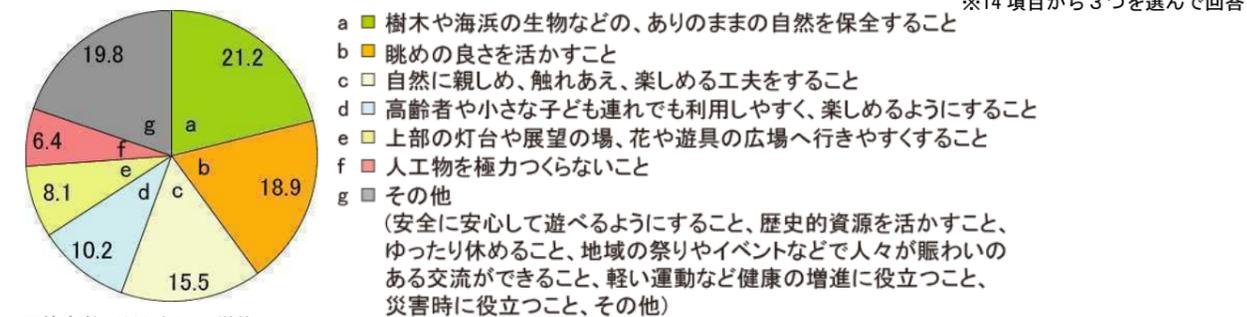
本計画の策定にあたりその基礎調査として、公園利用者へのアンケート(1,122名、全15問)、潜在利用者を中心としたウェブアンケート(300名、全13問)、関係18団体へのヒアリング、計5回のワークショップ等を実施し、公園へのニーズと利用実態を把握しました。

当公園は、年間82万人が利用していますが、来園者の利用動線を正確に把握するために行った入口カウント調査では、特にイベントのない晴天の休日で1日に11,768人(平成22年5月2日(日))が当公園を訪れており、その約4割は京急レストハウス方面からの入園でした。来園者の内訳は、35%が横須賀市内、38%がそれ以外の県内、27%が県外からの方で、3人に1人は初めて公園を訪れた方でした。公園の利用パターンは、広い園内でも比較的限られたエリアを利用する方が多く、バーベキュー利用客などは一箇所で長時間利用しておりますが、他の一般客の利用時間は2時間程度が中心で、海辺を歩き灯台付近までは多くの方が利用していますが、海辺から公園の尾根道まで登り、明治時代の砲台跡や戦没船員の碑、原っぱや花畑、常緑樹や落葉樹の森をめぐるといった利用は乏しい状況でした。

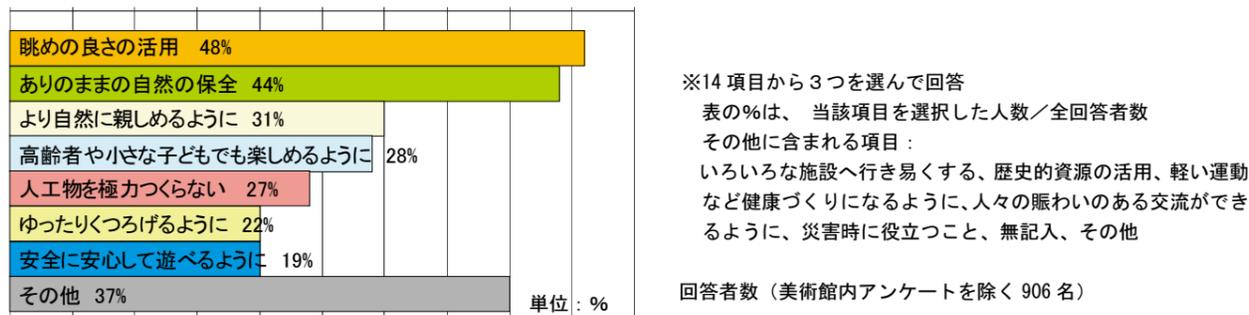
### 当公園への強いニーズ、最も大切にすべき視点

各種調査から、当公園に対しての最も強いニーズであり、最も大切にすべき視点は「ありのままの自然の保全」、「眺めの良さの活用」、「自然に親しめ、触れ合え、楽しめる工夫をすること」だとわかりました。また県全体の大きな政策として、「観光振興」や「県民協働」、「歴史資源の活用」がありますが、この3点は地元自治会や地元企業、既存ボランティアの方々に行ったヒアリングや専門家委員会での意見からも大きな課題として捉えられていました。また、公園利用の動機となる最大要素は、安心して磯・浜で水遊びができたり、四季を楽しめる花や樹木が多数あったり、楽しく自然や生き物を理解できる解説がある、といったものでした。

### 【問. 再整備で大切にすべき視点】 潜在利用者を中心としたウェブアンケートの結果



### 【問. 再整備で大切にすべき視点】 現況公園利用者(約7割がリピーター)へのアンケート結果



### 【問. 当公園に何があったら利用したくなりますか】 潜在利用者を中心としたウェブアンケートの結果

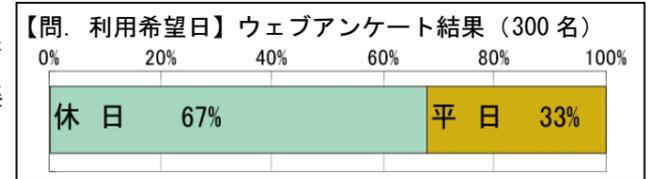
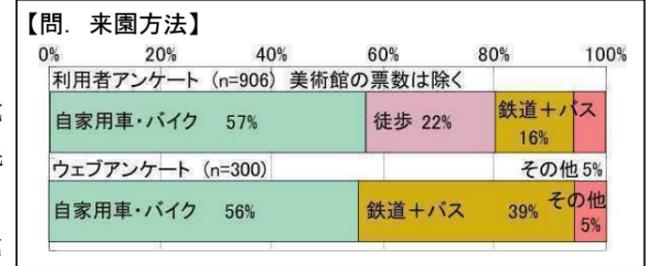
表は、4つのメニュー各12項目から利用したくなる項目を各3つ、順位を付けて選んでもらったものに、順位に応じてポイント数を与え、総獲得ポイント数が高い順に並べたもの。  
 ※第1位の回答に3点、第2位に2点、第3位に1点を付与し、集計した。  
 (4つのメニューは、①休息・飲食・買い物系、②野外遊び系、③野外キャンプ系、④自然・歴史・文化の体感・学習系)

順位	項目	ポイント数
1	安心して磯・浜で水遊びができる場所	481pt
2	四季を楽しめる花や樹木が多数ある	399pt
3	楽しく自然や生き物を理解できる解説(表示かガイドによる)	361pt
4	有料だがきちんとした水場があり、利用区画の予約ができるバーベキュー場	345pt
5	眺望がよい屋根付き休憩所	333pt
6	楽しく園内や地域の歴史を理解できる解説(表示かガイドによる)	325pt

7位以下(降順)  
 ・眺望がよい広々とした草地の広場  
 ・眺望のよいきれいなカフェ  
 ・眺望がよい場所のベンチ  
 ・バーベキューセット貸出、食材販売所  
 ・海の生き物にふれられる場所  
 ・今のままでよい  
 ・軽く手足が洗える施設

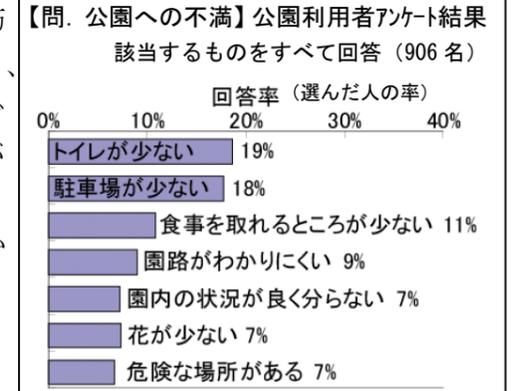
### 利用拡大の鍵となる60代以上のニーズ

利用希望日を問うウェブアンケートの結果では、平日利用希望の方が全体の33%おり、その年齢構成は60代以上が64%でした。土・日・祝日の駐車場、広場等の混雑を考えると、平日利用希望の方のニーズに応えることが公園利用拡大の大きな鍵となっています。この60代の方々は他の世代と比べて歴史資源等に関心が高かったことから、平日利用を拡大するためには公園の歴史資源の活用が有効です。また、年代問わずもっと四季を楽しめる花や樹木が欲しいといったニーズは強く、これも利用拡大の重要な鍵となっています。



### 当公園への不満

公園への不満は、駐車場やトイレ、食事場所の不足のほか、老朽化の進んだ施設があったり、園内に多くの急いしゅんな崖があったり、暗く危険な場所がある、また園内の状況がよくわからない、花が少ないといったものでした。利用者の来園方法は、現況でも車利用が6割であり、ウェブアンケートでも車での来園希望は6割でした。しかし、現状では特にイベントのない晴天の休日でも満車で、なかなか駐車場に入れない状態となっています。



### オーバーユースと施設整備への制約

広場面積が限られていることから、トップシーズンの休日はオーバーユース状態となっており、利用箇所の分散化や、広場・休憩所・トイレ等の増設が必要です。しかし、新設の施設整備のために景勝である自然を大きく改変することは、当公園への最大のニーズであり最も大切にすべき視点である、ありのままの自然の保全と眺めを活かすことに反するため、施設整備は既存施設を効率的に作り直す方法を中心に実施しなければなりません。

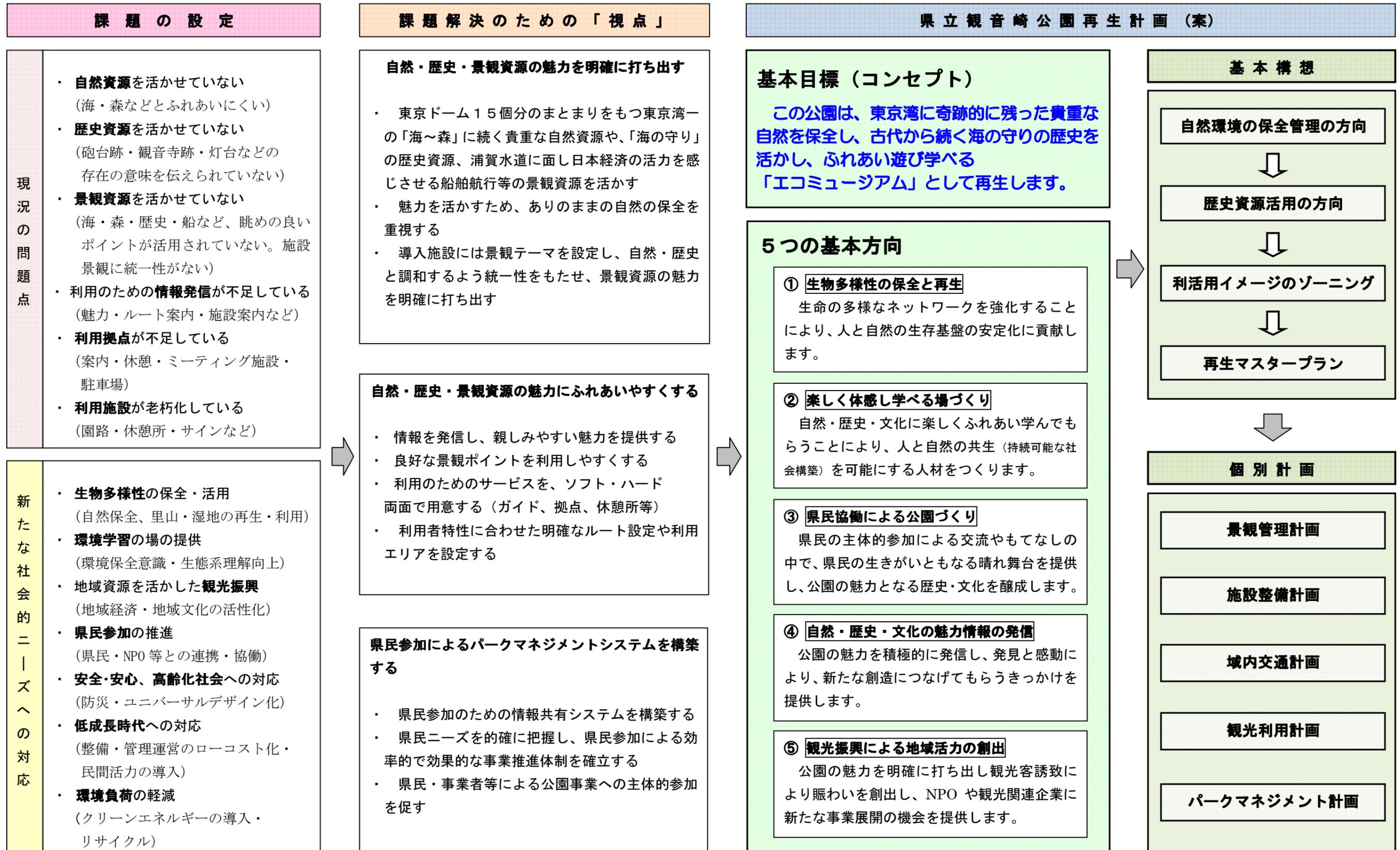
### アクセス改善の重要性

ウェブアンケートの結果で当公園への利用動機を損なう最大の要因は「家からの距離が遠い」でしたが、平成21年の横浜横須賀道路の延伸により、都心からの車のアクセスが向上し、その年に来園者が15%増加しています。また、最寄り駅である馬堀海岸駅からのバス便も平成19年の園内美術館のオープンにあわせ休日で1時間に4本程度に増便し、ほぼ渋滞なしに約10分で公園に到着できています。

## 第2章 基本目標と基本方向

### 2-1 計画のプロセス

当公園をとりまく社会的環境と公園の現況から公園の課題を設定し、その解決のための視点を定め、公園再生のための「基本目標」と「5つの基本方向」、「基本構想」を定めました。



## 2-2 基本目標と基本方向

### 基本目標（コンセプト）

この公園は、東京湾に奇跡的に残った貴重な自然を保全し、古代から続く海の守りの歴史を活かし、ふれあい遊び学べる「エコミュージアム」として再生します。

観音崎公園は、海から森へとつながる東京ドーム15個分のまとまりを持った広大な自然と、古事記の時代から明治、現代にまで続く海の守りの歴史を持った魅力あふれる公園です。

明治時代に軍の要塞化により奇跡的に残された貴重な自然はもちろんのこと、古東海道である観音崎沖に夫の航海安全のために身を投げて海を鎮めた古事記に登場する「弟橘姫」や、奈良時代に観音崎の洞窟に船守り観音として納められた十一面観音を祀っていた「観音寺跡」、日本で最初の洋式灯台「観音崎灯台」、小説『坂の上の雲』にも登場する「日本初の近代砲台群」、太平洋戦争の「戦没船員の碑」、現代の浦賀水道の航海の安全を守る「東京湾海上交通センター」など1,300年以上前から続く海の守りの歴史があります。また、「横須賀美術館」、「観音崎自然博物館」といった文化資源や、日本有数の船舶航行量を誇る「浦賀水道」を眼前とした、日本経済の活力を感じさせる東京湾の景観もあります。

一方、公園施設の多くは建設から40年以上が経過し老朽化が進んでいます。公園をとりまく社会環境も変化し、高齢者や子ども達への配慮、防災機能の向上、環境保全意識向上への配慮や、観光振興等による地域活性化への貢献等、新たな課題への対応が求められています。

そこで、これらの課題を解決するために、利用者アンケートやウェブアンケート等により、県民ニーズの実態を把握し、そしてそれらを県民参加のワークショップや専門家委員会で情報共有しながら再生計画の検討を進め、課題解決のための3つの大きな視点として「自然・歴史資源、海の景観資源の魅力を確認し打ち出す」、「魅力にふれあいやすくする」、「県民参加によるパークマネジメントシステムを構築する」を導き出しました。

そして、県立観音崎公園再生計画（案）の基本目標を、「東京湾に奇跡的に残った貴重な自然を保全し、古代から続く海の守りの歴史を活かし、ふれあい遊び学べるエコミュージアムとして再生する」とし、公園に残された貴重な自然を保全・再生し、公園の自然・歴史の魅力にふれあい遊び学びながら、県民の皆様と一緒に公園づくりを考え、実践することにしました。そして、皆様に生きがいを実感してもらおうとともに地域のにぎわいや活力を創出し、その力を広く周囲に発信していきます。

この再生計画が実践されることにより、県立観音崎公園は、県民の皆様が楽しみながら公園にふれあえ、今まで気づけなかった公園の魅力を発見でき、新たな知識を得ることにより心が動かされ、そうした情報の共有により人と人・人と自然が繋がる場となります。そして、その新たなつながりにより様々な創造がなされ、地域の活性化に貢献できる公園となり、人と自然の調和した姿を示す「エコミュージアム」として「再生」していくのです。

## 5つの基本方向

### ① 生物多様性の保全と再生



### ② 楽しく体感し学べる場づくり



### ③ 県民協働による公園づくり



### ④ 自然・歴史・文化の魅力情報の発信



### ⑤ 観光振興による地域活力の創出



#### 用語解説

##### ・エコミュージアム

固有の文化を有しているひとまとまりの地域と環境全体を博物館と考えたものです。その地域と環境を歴史的に探求し、かつその遺産を現地において保存・育成・展示することによって、市民を中心にその地域と環境を学習し地域の発展に役立てることであります。この考えは、1960年代にフランスの博物学者アンリ・リビエールが提唱したもので、フランスでは地方の民族文化の見直しや地方分権の政策と関連しながら、各地に広がり、現在では世界に幾百ものエコミュージアムが生まれ、自然と人間の調和する姿を示しています。

##### ・生物多様性

多様な生物が生態系の輪の中でつながり、互いに支え合い、影響を与え合いながら存在していることを言います。大正の詩人金子みすずの言葉を借りるなら「みんなちがって、みんないい」。本計画ではそれを生物多様性が持つ重要な意味と捉え、人間も含む様々な生物が生き生きと生命本来の輝きを発せられることを目指します。

##### ・県民協働

県民と行政とが一緒になって汗をかき、みんなのために様々な活動をしていくことを言います。本計画では、県民発案による県民主体の活動を行政が上手にサポートし、また、県民同士のネットワークを強化し、効率的で効果的な事業を進めていくことを目指します。

# 第3章 基本構想

## 3-1 自然環境の保全管理の方向

当公園には、東京湾随一の海から森へとつながる広大で多様な自然があります。

「自然環境の保全管理の方向」では、多様な自然を保全とふれあいの度合いによって5段階に分け、様々な生物とそれとをとりまく多様な自然環境に効率的にふれあい学べるようにします。

### 3 自然環境の保全管理の具体的施策

- ・「海～森のエコトーン」の自然の積極的再生
- ・「里海・里山・谷戸」の自然の積極的再生
- ・「サンクチュアリ（聖域）」の設定
- ・他の生物の生息環境を脅かす「外来種除去」
- ・「自然観察・ふれあいの場」の設定

※ 外周民地・道路や園路に面した場所で、法面崩壊防止対策が必要な箇所や、良好な展望ポイント、また死角により来園者が危険を感じるような箇所では、選択的枝落しや伐採を実施する。

#### 1 現存植生（ベース図）の色の凡例

(H14年 エコアップ調査報告書をもとに作成)

照葉樹林-1 (シイ・タブ・シロダモの極相林)	高茎草地 (ヨモギースキ群落)
照葉樹林-2 (マテバシイ)	低茎草地 (チガヤースキ群落)
混合林 (常緑70%、落葉30%)	アズマネザサ群落地
落葉樹林-1 (カラスザンショウ・クサギ)	海岸草地
落葉樹林-2 (クスギ・コナラの二次林)	湿生草地
岩盤露頭地植生	造園・園芸植物植栽地、花壇
シバ草地	裸地

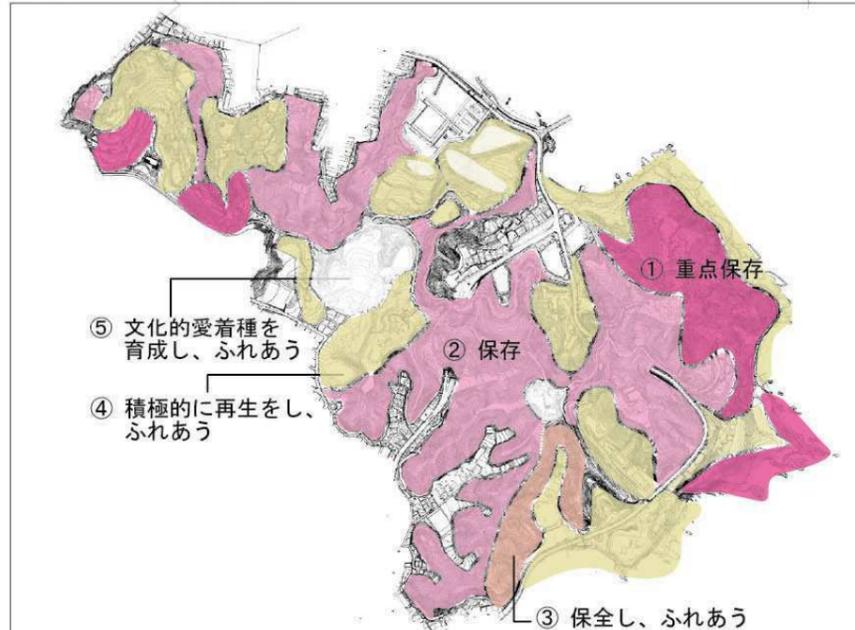
#### 2 目標とする生物多様性の保全区分

目標とする自然のタイプ

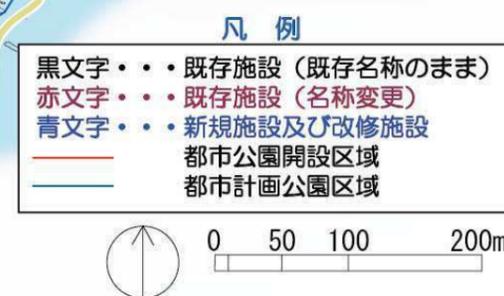
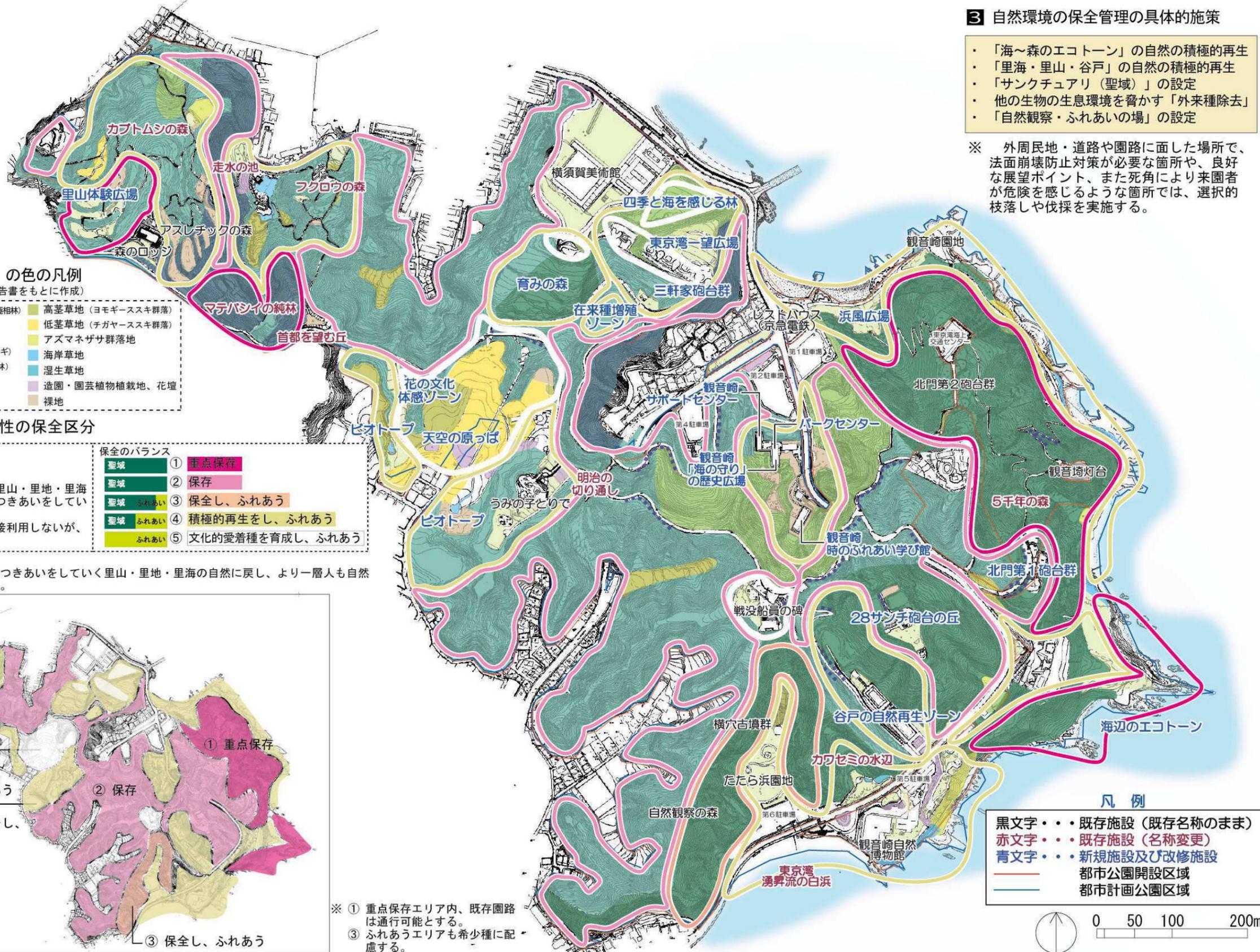
聖域	ふれあい
人の利用があり、里山・里地・里海といった人と良好なつきあいをしていく自然。	
原生の自然または人が直接利用しないが、積極的に見守る自然。	

保全のバランス	① 重点保存
聖域	② 保存
聖域	③ 保全し、ふれあう
聖域	④ 積極的再生をし、ふれあう
聖域	⑤ 文化的愛着種を育成し、ふれあう

ここでの「再生」とは、もとの原生自然や、人と良好なつきあいをしていく里山・里地・里海の自然に戻し、より一層人も自然も生き生きできるようにすること。



※ ① 重点保存エリア内、既存園路は通行可能とする。  
③ ふれあうエリアも希少種に配慮する。



### 3-2 歴史資源活用の方向

当公園には、古事記の時代から続く「海の守り」のために尽くしてきた人々の歴史があります。園内各所で「砲台跡」等の近代化遺産を見ることができ、小説『坂の上の雲』に象徴される日本の近代化を推し進めた明治の人々の時代の息吹が感じられます。「戦没船員の碑」では太平洋戦争の悲しい歴史が後世に伝えられています。その貴重な歴史資源に光を当て、保全・活用し、明確な利用ルートの設定やサイン・ガイドによる解説、広報誌の発行等の充実によって積極的に情報発信をすることで、凡例利用者の年代を問わずこれらの歴史に効率的にふれあい学べるようにします。



### 3-3 利活用イメージのゾーニング

当公園の基本目標と5つの基本方向、自然環境の保安全管理の方向、歴史資源活用の方角を受けて、場所ごとに目指す利活用イメージの特性を示し、6つのゾーンに区分しました。

歴史・文化の特性を強く打ち出したゾーンとして、メイン入口であり、ふれあいやすい自然と公園の基礎情報を提供する「自然へのいざないゾーン」、横須賀美術館や最もバリエーションに富んだ砲台遺跡がそろった「文化とふれあうゾーン」、幕末から明治、そして太平洋戦争終結までの近代の歴史や「海の守り」の歴史をたどる「近代史体感ゾーン」を設定しました。

また、多様な自然環境を活かしたゾーンとして、砂浜から磯場、海から森へと移り変わっていく多様な自然とふれあえ、公園の自然について最も中心的に学べる「里山体感ゾーン」、広大な草原と、古来から日本人の重要な文化として親しまれてきた桜や草花等にふれあえる「草原あそびゾーン」、原生自然ではなく人の手の入った二次的自然であり、人と良好な関係を築いてきた里山とふれあえる「里山体感ゾーン」を設定しました。

#### ■ 里山体感ゾーン

人と良好な関係を築いてきた里山とふれあえるゾーン

- ・ 里山再生（自然ふれあい協働体験）
- ・ 自然遊び、自然体験学習機能の強化
- ・ 安全・安心に利用できる空間の確保

#### ■ 文化とふれあうゾーン

横須賀美術館との連携や、バリエーションに富んだ砲台遺跡にふれあうゾーン

- ・ 歴史や文化を体感できる場づくり
- ・ 海の展望をゆっくり楽しめる場づくり
- ・ 三軒家砲台、花の広場へのアクセス改善
- ・ 美術館との連携、季節感あふれる植栽

#### ■ 自然へのいざないゾーン

公園のメイン入口として、ふれあいやすい自然と公園の基礎情報を提供するゾーン

- ・ インフォメーション機能の強化
- ・ 管理機能の強化
- ・ 休憩機能の強化
- ・ 海の自然遊び機能の強化
- ・ 地域参加でにぎわいの創出（イベント、朝市、体験学習等）

#### ■ 草原あそびゾーン

広大な草原と、桜や草花等にふれあえるゾーン

- ・ 草原でのびのび遊べる場づくり
- ・ 広がりのある地形を活かした原っぱ（花の風景）づくり
- ・ 草花や昆虫を育むためのコミュニティの場づくり
- ・ 休憩機能の強化

#### ■ 近代史体感ゾーン

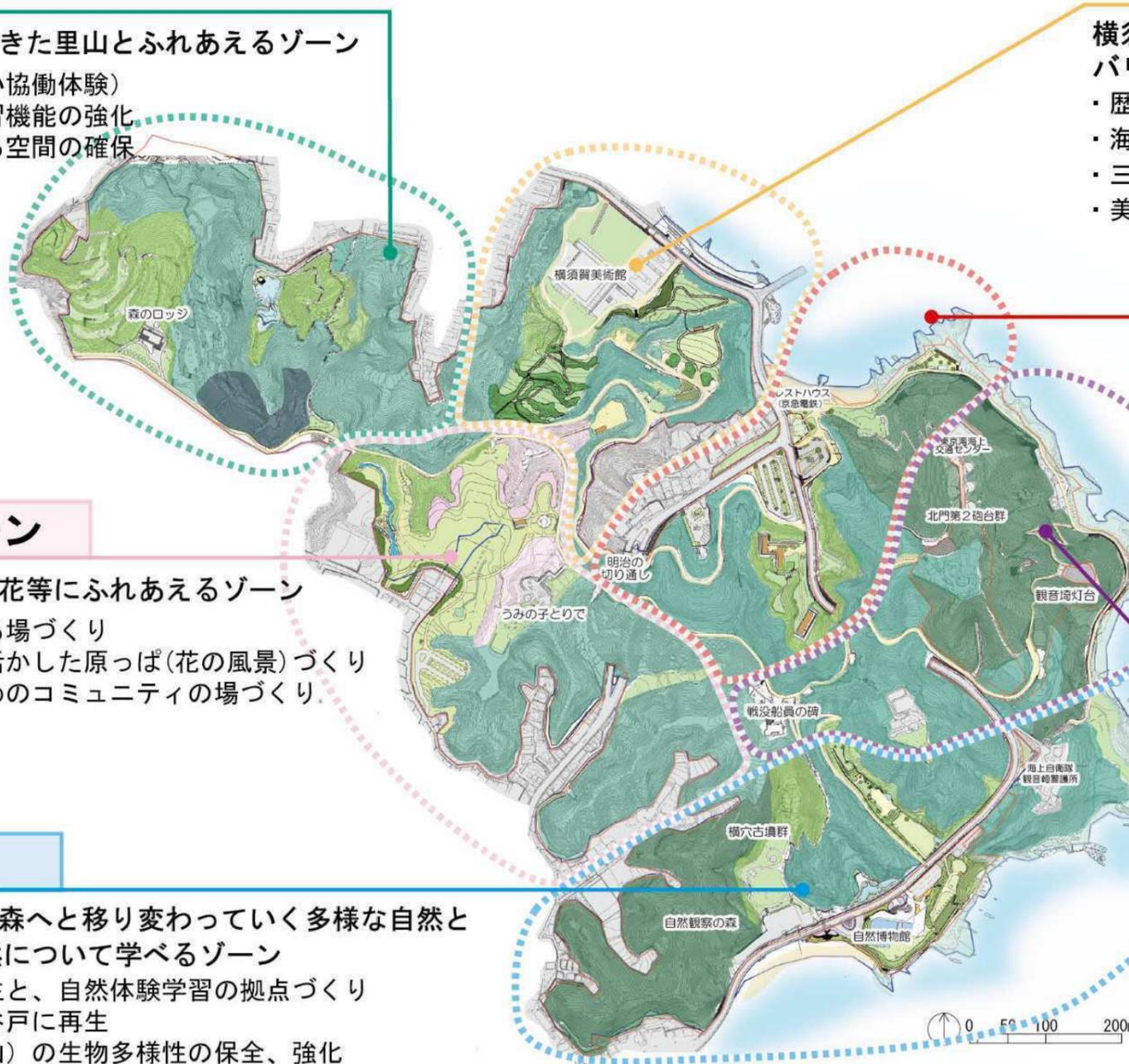
幕末から明治、そして太平洋戦争終結までの近代の歴史や「海の守り」の歴史をたどるゾーン

- ・ 歴史的資源の紹介
- ・ アクセスの改善
- ・ 海の眺望確保と休憩機能の強化

#### ■ 里山体感ゾーン

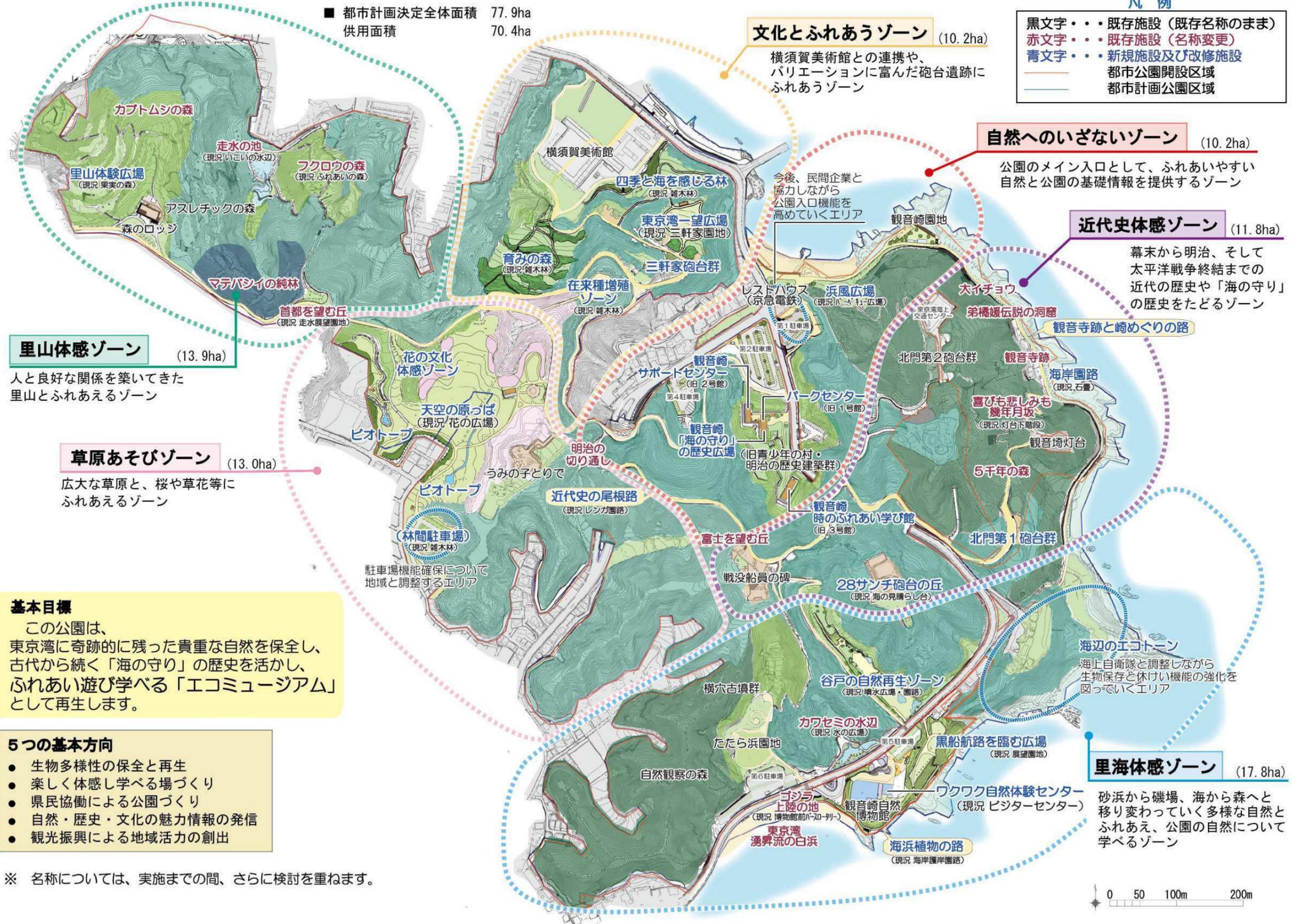
砂浜から磯場、海から森へと移り変わっていく多様な自然とふれあえ、公園の自然について学べるゾーン

- ・ 里海・里山文化の再生と、自然体験学習の拠点づくり
- ・ 人工的施設を自然の谷戸に再生
- ・ エコトーン（海から山）の生物多様性の保全、強化
- ・ デザインの統一がとれた施設整備と植栽



### 3-4 再生マスタープラン

再生計画（案）の目指す方向を利活用イメージの特性ごとに6つのゾーンに区分した「ゾーニング」をもとに、さらにゾーン内の具体の場所の利活用イメージの特性に合わせて個別のエリアと施設を定め、「県立観音崎公園再生計画（案）」の基本的な方針を示す「再生マスタープラン」を策定しました。

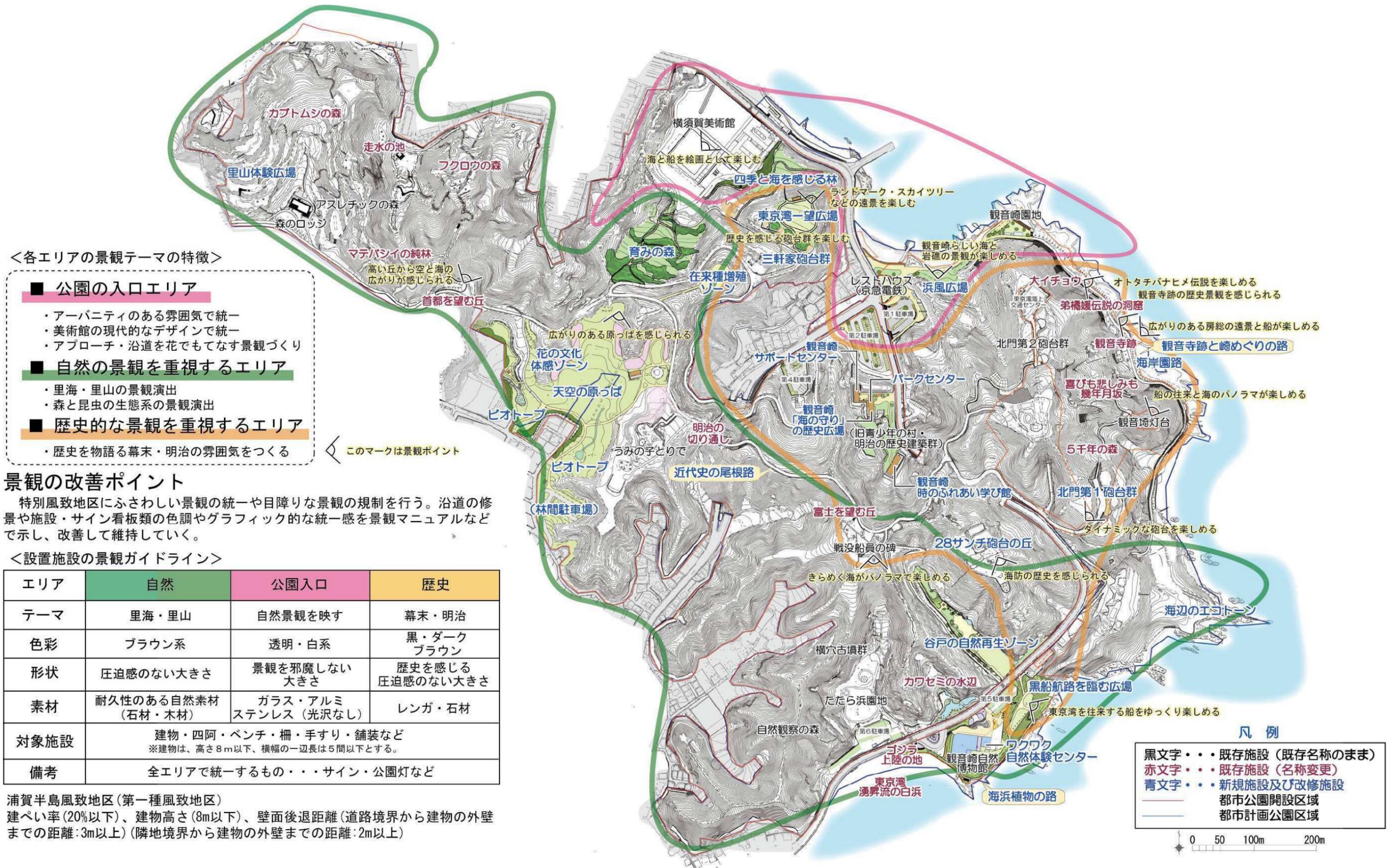


# 第4章 個別計画

第3章の基本構想をもとに、景観管理や具体的な施設整備、域内交通の改善、観光利用コースの設定、パークマネジメント（公園経営）といったテーマ別の個別計画を策定しました。

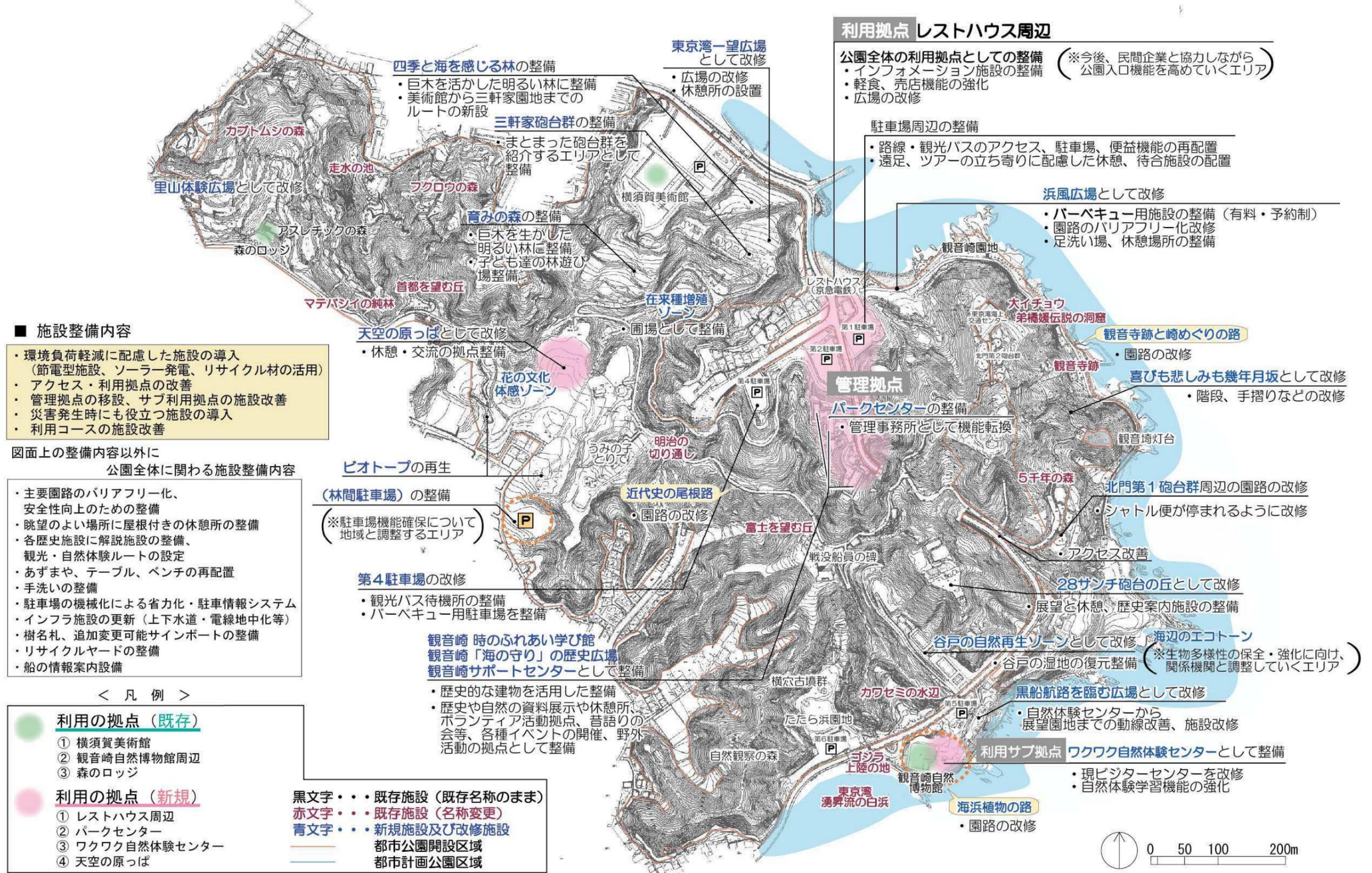
## 4-1 景観管理計画

海と船・自然・歴史の景観を楽しめるポイントと当公園の自然・歴史・文化の特性を踏まえて、エリアごとに景観テーマを設定し、ガイドラインに沿った施設整備を図り、景観の魅力を明確に伝えます。



## 4-2 施設整備計画

今ある自然や地形を活かしつつ、公園に求められている機能や施設規模を想定して、再整備を行います。



### ■ 施設整備内容

- ・環境負荷軽減に配慮した施設の導入 (節電型施設、ソーラー発電、リサイクル材の活用)
- ・アクセス・利用拠点の改善
- ・管理拠点の移設、サブ利用拠点の施設改善
- ・災害発生時にも役立つ施設の導入
- ・利用コースの施設改善

図面上の整備内容以外に

公園全体に関わる施設整備内容

- ・主要園路のバリアフリー化、安全性向上のための整備
- ・眺望のよい場所に屋根付きの休憩所の整備
- ・各歴史施設に解説施設の整備、観光・自然体験ルートの設定
- ・あずまや、テーブル、ベンチの再配置
- ・手洗いの整備
- ・駐車場の機械化による省力化・駐車情報システム
- ・インフラ施設の更新 (上下水道・電線地中化等)
- ・樹名札、追加変更可能サインボードの整備
- ・リサイクルヤードの整備
- ・船の情報案内設備

< 凡例 >

### 利用の拠点 (既存)

- ① 横須賀美術館
- ② 観音崎自然博物館周辺
- ③ 森のロッジ

### 利用の拠点 (新規)

- ① レストハウス周辺
- ② パークセンター
- ③ ワクワク自然体験センター
- ④ 天空の原っぱ

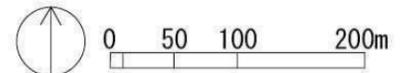
黒文字・・・既存施設 (既存名称のまま)

赤文字・・・既存施設 (名称変更)

青文字・・・新規施設及び改修施設

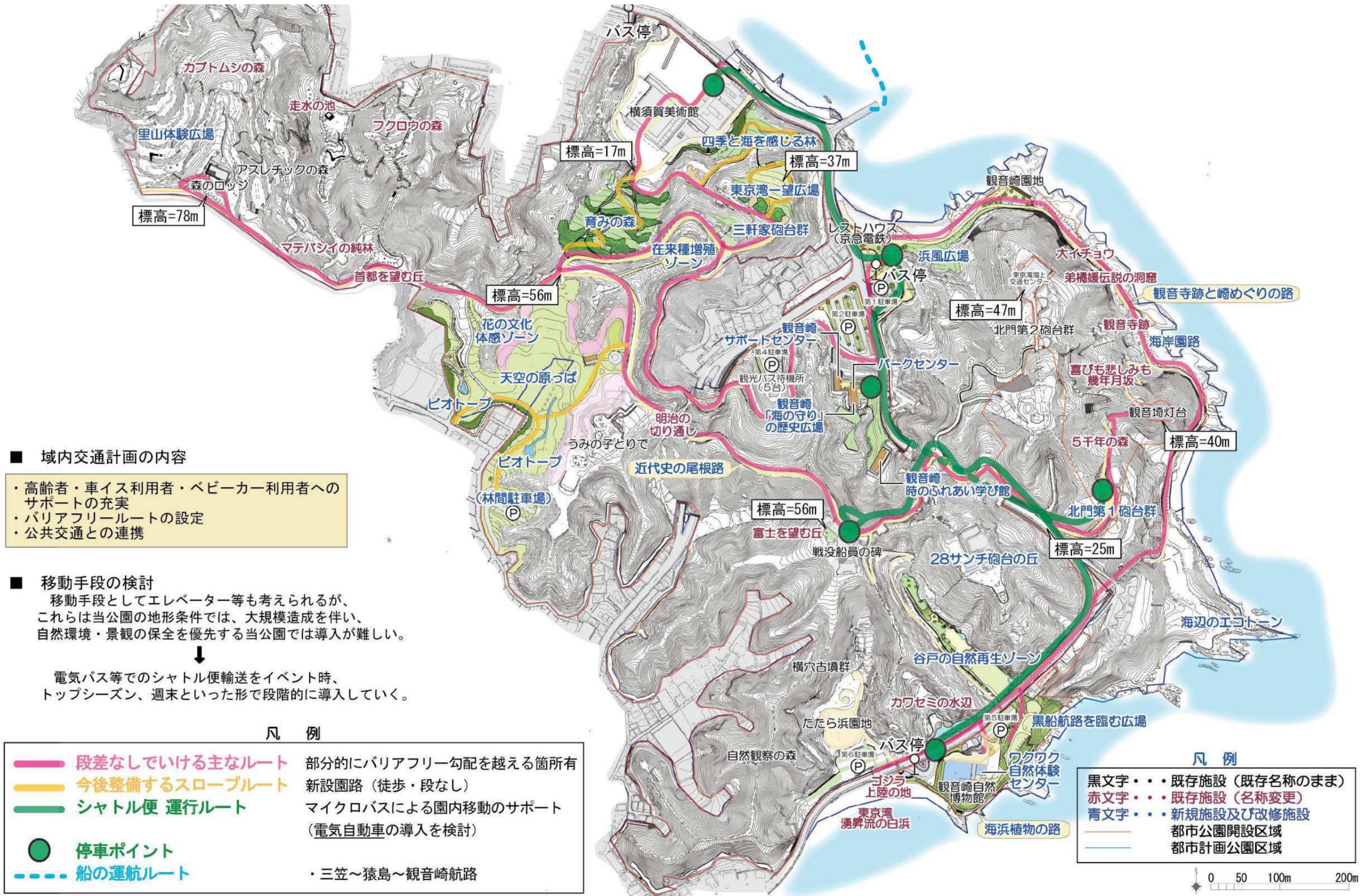
都市公園開設区域

都市計画公園区域



### 4-3 域内交通計画

当公園は広大な敷地であることに加え起伏に富んだ地形条件であり、全ての園路をバリアフリー化することは難しいため、各ゾーンをつなぐ域内交通手段としてシャトル便輸送等の導入について検討していきます。



#### ■ 域内交通計画の内容

- ・高齢者・車イス利用者・ベビーカー利用者へのサポートの充実
- ・バリアフリールートの設定
- ・公共交通との連携

#### ■ 移動手段の検討

移動手段としてエレベーター等も考えられるが、これらは当公園の地形条件では、大規模造成を伴い、自然環境・景観の保全を優先する当公園では導入が難しい。



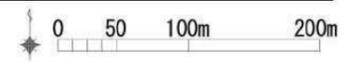
電気バス等でのシャトル便輸送をイベント時、トップシーズン、週末といった形で段階的に導入していく。

#### 凡 例

- 段差なしでいける主要ルート
  - 今後整備するスロープルート
  - シャトル便 運行ルート
  - 停車ポイント
  - 船の運航ルート
- 部分的にバリアフリー勾配を越える箇所  
新設園路（徒歩・段なし）  
マイクロバスによる園内移動のサポート（電気自動車の導入を検討）  
・三笠～猿島～観音崎航路

#### 凡 例

- 黒文字・・・既存施設（既存名称のまま）
- 赤文字・・・既存施設（名称変更）
- 青文字・・・新規施設及び改修施設
- 都市公園開設区域
- 都市計画公園区域



## 4-4 観光利用計画

より多くの方に楽しみながら学んでもらえるよう、園内の資源を効率的に利用できる3つの観光コースを設定しました。

またこのコースは、公園の再生にとって重要となる箇所をつなぐため、今後、優先的に整備を進めます。

そのほか、広報キャラクターなどを設定し、園内サインやガイド、広報等を充実させ、広域・地域に親しみやすい情報発信を行います。

### ■ 観光利用コース

#### 当公園一押しコース (90分)

##### ① 「灯台と海の守りの歴史をたどる」中高年観光ターゲット

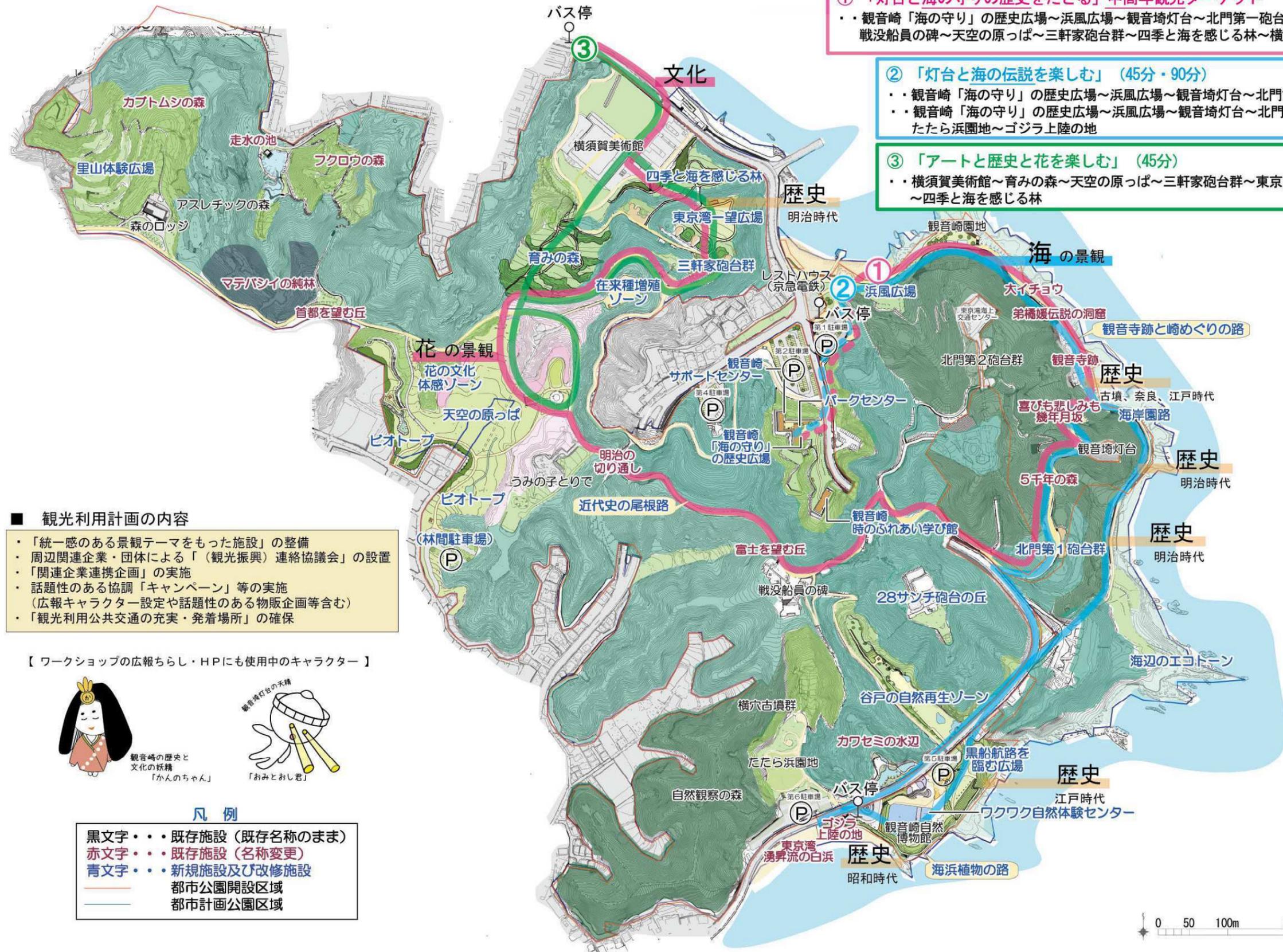
- ・ 観音崎「海の守り」の歴史広場～浜風広場～観音崎灯台～北門第一砲台群～戦没船員の碑～天空の原っぱ～三軒家砲台群～四季と海を感じる林～横須賀美術館

##### ② 「灯台と海の伝説を楽しむ」(45分・90分)

- ・ 観音崎「海の守り」の歴史広場～浜風広場～観音崎灯台～北門第一砲台群
- ・ 観音崎「海の守り」の歴史広場～浜風広場～観音崎灯台～北門第一砲台群～たたら浜園地～ゴジラ上陸の地

##### ③ 「アートと歴史と花を楽しむ」(45分)

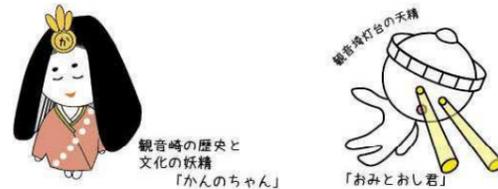
- ・ 横須賀美術館～育みの森～天空の原っぱ～三軒家砲台群～東京湾一望広場～四季と海を感じる林



### ■ 観光利用計画の内容

- ・ 「統一感のある景観テーマをもった施設」の整備
- ・ 周辺関連企業・団体による「(観光振興)連絡協議会」の設置
- ・ 「関連企業連携企画」の実施
- ・ 話題性のある協調「キャンペーン」等の実施  
(広報キャラクター設定や話題性のある物販企画等含む)
- ・ 「観光利用公共交通の充実・発着場所」の確保

【ワークショップの広報ちらし・HPにも使用中のキャラクター】



### 凡例

- 黒文字・・・既存施設 (既存名称のまま)
- 赤文字・・・既存施設 (名称変更)
- 青文字・・・新規施設及び改修施設
- 都市公園開設区域
- 都市計画公園区域

## 4-5 パークマネジメント計画

パークマネジメントとは、「整備」が終わったら「メンテナンス（維持管理）」という従来型の公園事業ではなく、一通りの施設整備が終わっても魅力ある企画（事業）を実施し続け、年を経るごとに、より効率的・効果的に公園の役割を果たしていけるよう「公園を経営」していくことを指します。

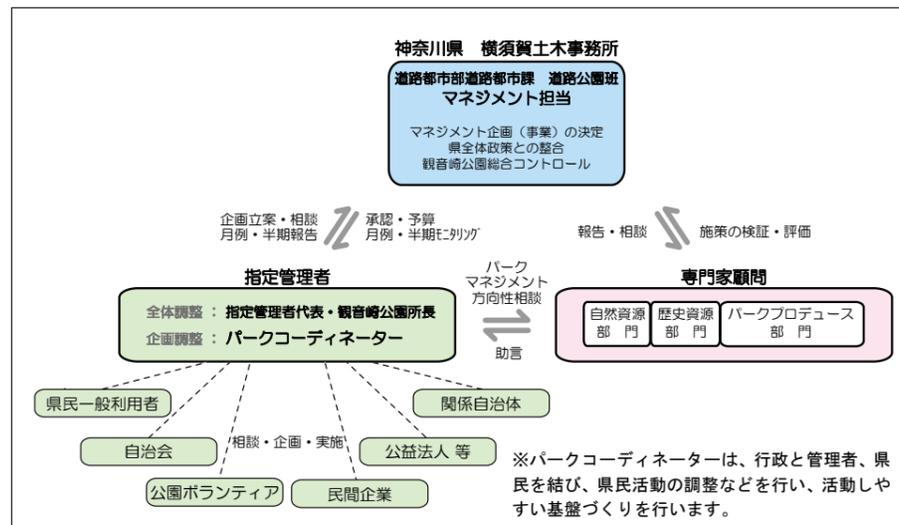
「パークマネジメント（公園経営）」には、公園の果たすべき役割を確認しながら常に工夫と改善が行える体制が必要です。公園へのニーズを把握し続け、ノウハウの活用と蓄積による確かな企画（事業）を実施し、企画実施のために必要な資金を確保し、適切な人材配置を行い、それを組織として機能させなければなりません。

当公園では基本目標である、人と自然の調和した姿を示す「エコミュージアム」の実現に向けた「パークマネジメント」のために、必要な体制や事業内容等を以下のように決めました。

### (1) パークマネジメントの体制

#### ● 組織

神奈川県横須賀土木事務所と指定管理者、そして県民、専門家顧問が互いに情報を共有しながらパークマネジメントを行います。



#### ● 資金計画

今までの運営資金に加え、基金や民間からの資金、CSR活動の受け入れなどを行っていくことを検討していきます。



#### ○ 施設運用費の収入増

- ・三浦半島・横須賀の平日立ち寄り観光の利用拡大による駐車場料金の増収と、駐車場の時間貸し等による利用の増進
- ・研修室、講習室等の貸出による利用料金の増収
- ・コインシャワー・コインロッカーの設置等による利用料金収入 等

#### ○ 指定管理者の自主事業収入増

- ・イベント収入、軽飲食・土産物販売、イベント時臨時店舗出店、バーベキュー機材貸出・食材販売 等

#### ○ 民間資金の活用

- ・県民、団体、企業からの資金調達、基金の設置
- ・物資寄付の受け入れ体制の確保、公園計画に沿った形での名前入りベンチ、花・苗木 等

#### ○ 民間ノウハウ活用による、公園の魅力アップ

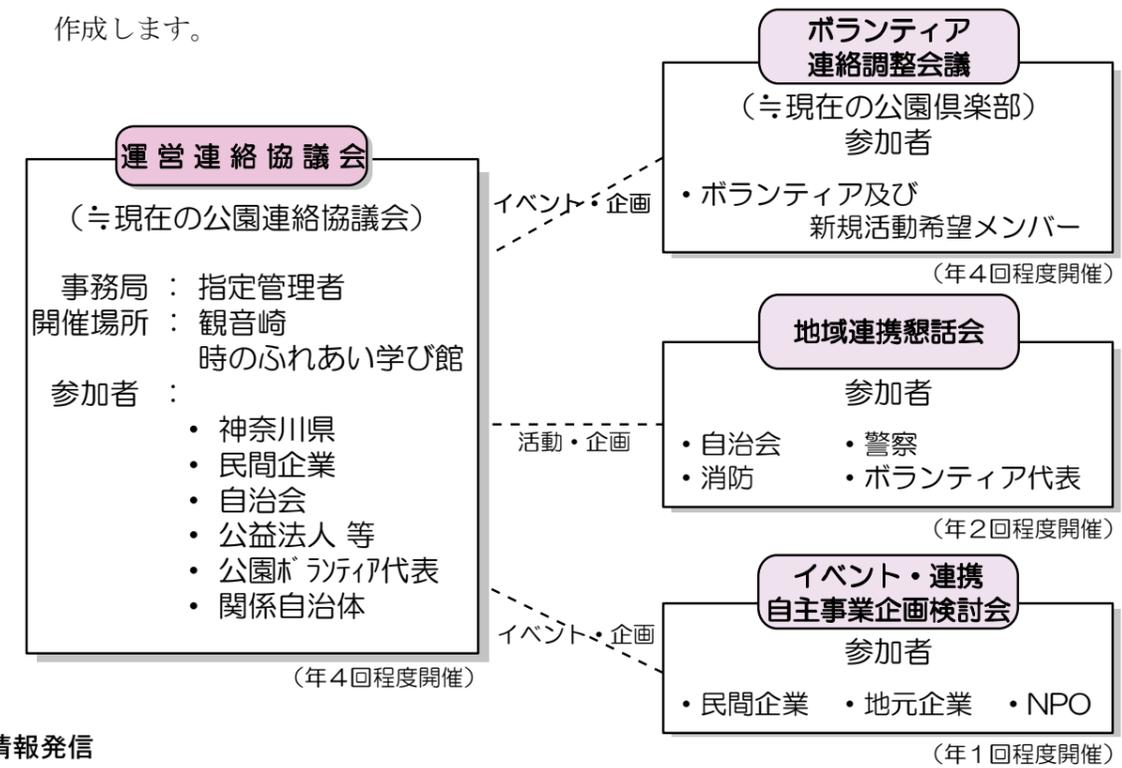
- ・企業によるツアー誘致や広報活用による利用客の増大
- ・企業 CSR 活動の受け入れ

#### ● 政策達成度チェック

- 県民・利用者ニーズ把握、利用者満足度調査の継続実施
- 政策目標達成状況チェック
  - ・PDCA サイクルのマネジメントを活用し、目標へフィードバック
- 県民活動・観光振興企画の把握（マネジメント会議）

#### ● 会議

目的：公園づくりに参加したい方々の企画・立案内容の相互調整・相互協力を行い、年間事業計画を作成します。



#### ● 情報発信

目的：三浦半島全体と公園の魅力積極的に発信し、公園の価値を認識してもらうことで、利用客の増加、県民参加を推進します。

- 情報誌の発行（参加呼びかけ、企画呼びかけ、宣伝、観光振興）
- 公園のホームページの充実、広報キャラクターの活用
- パブリシティの活用（時流テーマをとらえたもの）
- イベント企画・開催、話題性のある物販企画等

#### ● 人材育成

- 定期研修・講習会、他事例見学交流会の実施（一般県民、関係ボランティア、担当職員）
- ガイド検定制度の実施
- 表彰・特典・報償（有償）制度の実施

(2) パークマネジメントの全体体系

公園のハード事業は、広報や魅力的な体験プログラム、県民参加をする方々のやる気を持続させるための各種ソフト事業と一体となって始めて効率的に機能します。また、それらの事業は互いにネットワークし、その相互作用により事業効果が上がります。それらを意識して以下の事業を実施します。

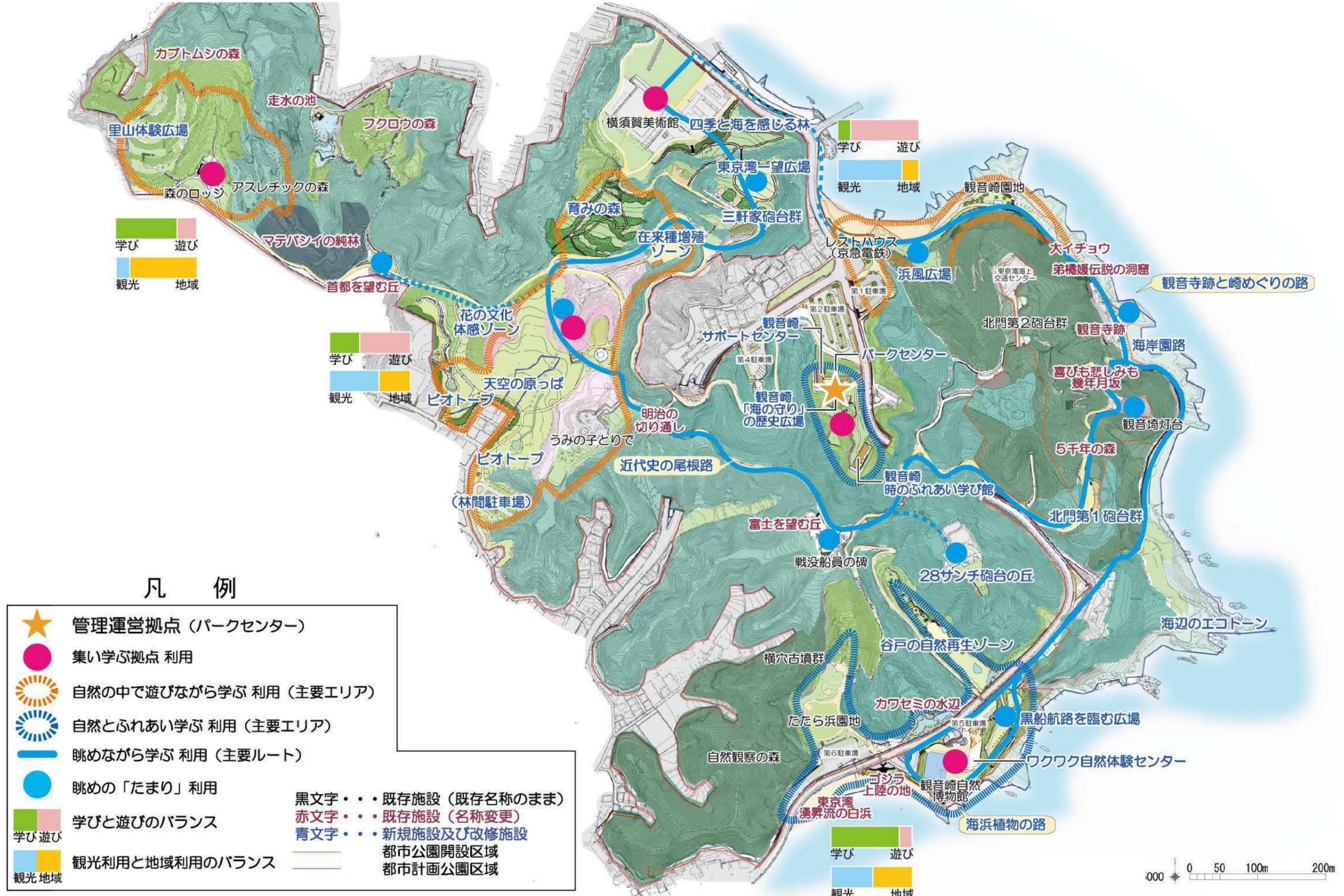
5つの基本方向

- ① 生物多様性の保全と再生
- ② 楽しく体感し学べる場づくり
- ③ 自然・歴史・文化の魅力情報の発信
- ④ 県民協働による公園づくり
- ⑤ 観光振興による地域活力の創出

		ソフト事業（制度や活動など）																	
		①生物多様性の保全と再生				②楽しく体感し学べる場づくり			③自然・歴史・文化の情報発信				④県民協働による公園づくり			⑤観光振興による地域活力の創出			
		「海〜森のエコトーン」の調査・立入規制・育成	「里海・里山・谷戸」の調査・立入規制・育成	「サンクチュアリ（聖域）」の設定・調査	他の生物の生息環境を脅かす「外来種の除去」	「自然体験学習会」の実施	「歴史・文化体感学習会」の実施	「ガイドの確保・育成・検定試験」実施	「情報誌」の発行、「ホームページ」による情報発信	「イベント」実施	時流テーマを捉えた「パブリシティ」の活用	「県民参加増・利用客増」による口コミ情報発信	「運営協議会」等、県民有志との協議会設置	「県民企画事業」の実施支援	「県民活動組織の育成」・「継続的支援」	「表彰・特典・報償（有償）」制度実施	周辺関連企業・団体による「観光振興」企画連携協議会」の設置・「企業連携企画」の実施	民間企業連携「キャンペーン」実施	
ハード事業（自然・歴史資源確保や施設整備）	①	「海〜森のエコトーン」の自然資源確保・「希少種」の確保	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		「里海・里山・谷戸」の自然資源確保と再生整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		「自然観察・ふれあいの場」の自然資源確保と施設整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	②	「海の守りの歴史」の資源確保と体感・学習できる施設整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		体感・学びのための「利用拠点・サイン・便益施設等」整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		「明快で安全な利用ルート・休憩所等」施設整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	④	「県民活動拠点」整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	⑤	「統一性のある景観テーマ」をもった施設整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		「公共交通ルート・発着場所、駐車場」の拡充整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

### (3) 利用の拠点ごとの利活用方法のバランス区分

園内を効率的に利用してもらうため、4-2 施設整備計画における「利用の拠点」ごとに、「遊び」と「学び」、「観光利用」と「地域利用」とのバランスを設定し、利活用方法を定めました。



(4) イベントプログラム

現在も行われているフィールドレンジャーなどによる公園ボランティアの定期的活動、指定管理者、博物館、美術館のイベントとの連携、エコミュージアムをより楽しめるプログラムを積極的に取り入れていきます。  
新たに整備される『観音崎「海の守り」の歴史広場』は、学習講座などを主に設け知識を深めていく場に、『ワクワク自然体験センター』は、観音崎の自然を体感し実践的に学んでいく場とします。

ゾーン名	開催場所	イベント名称	開催季節				再生計画 5つの基本方向との関連				
			春	夏	秋	冬	生物多様性の 保全と再生	楽しく体感し 学べる場づくり	県民協働による 公園づくり	自然・歴史・文化の 魅力情報発信	観光振興による 地域活力の創出
公園全体	公園全体	観音崎エコミュージアムツアー	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		自然ガイド	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		歴史ガイド(砲台群、弟橘媛伝説など)	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		shipウォッチングツアー	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		観音崎フェスタ	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		写真コンテスト	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		近隣公園、近隣施設との連携イベント	■	■	■	■	■	■	■	■	■
文化とふれあうゾーン	東京湾一望広場 四季と海を感じる林	森の中の美術館	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	育みの森	自然のなかで遊んでみよう	■	■	■	■	■	■	■	■	■
自然へのいざないゾーン	レストハウス周辺	朝市、バザー	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	観音崎「海の守り」の歴史広場 観音崎時のふれあい学び館	観音崎アカデミー講座	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		観音崎の歴史語りべの会	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		お茶のおもてなし文化体験	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		昔体験キャンプ教室	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		「弟橘姫」、「明治」の人になってみよう	■	■	■	■	■	■	■	■	■
里海体感ゾーン	谷戸の自然再生ゾーン	ビオトープづくり	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		稲を育ててみよう	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		お茶摘み体験	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		ホタル観察会	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ワクワク自然体験センター	キッズサマーキャンプ	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		クラフト教室	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		江戸前鮎講座 餅つき	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	観音崎自然博物館	ウミホタル観察会	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		海中観察会	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		磯の生物観察会	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		バードウォッチング	■	■	■	■	■	■	■	■	■
草原あそびゾーン	花の文化体感ゾーン ビオトープ 在来種増殖ゾーン	ビオトープづくり	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		花壇づくり	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		在来種増殖	■	■	■	■	■	■	■	■	■
里山体感ゾーン	森のロッジ周辺	森の手入れ体験	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		自然の中で遊んでみよう	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		カブトムシを探そう	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		森のコンサート	■	■	■	■	■	■	■	■	■

※ 上記イベントは、既に公園で実施されているものもあり、今後より一層の充実を図るものも含まれます。

# 第5章 再生計画（案）の実現に向けて

## ○ 今後のスケジュール（案）

当公園の年間来園者数は、現在 82 万人（横須賀美術館を除く）ですが、今後、年間 100 万人以上が訪れる公園となるよう、公園の再生を進めてまいります。

老朽化が進み危険度が増しているエリアや利用が集中するエリアを先行して、詳細の検討を行い、事業を進めます。

ゾーン	主な再生（改修、整備）内容	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度以降
<b>文化とふれあうゾーン</b> （三軒家園地周辺） 【横須賀美術館との連携やパリエーションに富んだ砲台遺跡にふれあうゾーン】 ・歴史や文化を体感できる場づくり ・海の展望をゆくり楽しめる場づくり ・三軒家砲台、花の広場へのアクセス改善 ・美術館との連携、季節感あふれる植栽	美術館横の園路・広場新設 【「四季と海を感じる林」の新設】	美術館横の園路広場の新設					
	三軒家園地の改修				東京湾が一望できる広場の整備		
	園路・広場の新設 【「育みの森と在来種増殖ゾーン」を整備】						美術館から花の広場への園路と在来種増殖ゾーンの新設
	三軒家砲台群を活用した広場の改修						三軒家砲台群を活用した広場の改修
<b>自然へのいざないゾーン</b> （旧青少年の村周辺） 【公園のメイン入口として、ふれあいや自然と公園の基礎情報を提供するゾーン】 ・インフォメーションの機能の強化 ・管理機能、休憩機能の強化 ・海の自然遊びの機能強化 ・地域参加でにぎわいの創出	旧青少年の村(1号館)の改修 【パークセンター・展示スペース・多目的利用スペースを整備】	旧青少年の村除却工事 【管理棟・炊事棟・外構などの撤去】 (県青少年課発注)	旧1号館(パークセンター)の建物改修				
	旧青少年の村(2号館)の改修 【管理棟やボランティアの詰所と資料保存庫を整備】		旧2号館(公園管理員とボランティア詰所・倉庫)の建物改修				
	旧青少年の村(3号館)の改修 【研修やイベントで利用する大広間と屋内での宿泊体験学習に対応した施設の整備】		旧3号館(研修・宿泊棟)の建物改修				
	旧青少年の村(外構)の改修 【パークセンター広場と野外宿泊体験学習施設(テントサイト・野外炊事棟・シャワー棟など)の整備】		外構改修(パークセンター広場の整備)と野外宿泊体験学習施設の整備				
	第2駐車場の改修とトイレの新設 【第2駐車場の駐車容量アップとトイレ不足解消】	第2駐車場トイレ(市管理)除却 (横須賀市発注)	第2駐車場の改修とトイレの新設				
	第4駐車場の改修 【大型バス用駐車場の整備】		第4駐車場の改修				
	京急レストハウス周辺の広場の改修				レストハウス周辺	観音崎公園の玄関口となる広場の整備 ※1	
	第1駐車場の改修 【駐車容量アップ・トイレの更新・バスロータリーの改良】					第1駐車場、トイレ及びバスロータリーの改修	
	バーベキュー広場の改修 【洗い場の新設や区画割りなどのルール整備】					バーベキュー広場の改修 ※2	
	<b>里海体感ゾーン</b> （自然博物館・ビュッセルセンター・噴水広場周辺） 【砂浜から磯場、海から森へと移り変わっていく多様な自然とふれあえ、公園の自然について学べるゾーン】 ・里海、里山文化の再生と自然体験学習の拠点づくり ・人工的施設を自然の谷戸に再生 ・エコトーン(海から山)の生物多様性の保全、強化 ※3 ・デザインの統一がとれた施設整備と植栽	ビュッセルセンターの改修 【「(仮称)ワカ自然体験センター」の整備】					
自然博物館の機能拡充とテントサイトの整備 【タフアルやシャワールーム改修による自然体験学習施設の改修とテントサイト等の宿泊体験施設の整備】		自然博物館周辺の整備					自然体験学習の研修補助施設とするためのビュッセルセンター建物の改修
噴水広場の改修 【「谷戸の自然再生ゾーン」の整備】		落石防止網の整備			ホテルのすむ里山のある自然体験学習の場となる広場の整備		自然博物館の機能拡充とテントサイト広場の整備
展望園地と現・第5駐車場の改修 【「黒船航路を望む広場」の整備と駐車容量アップ】							展望園地の老朽化更新と現・第5駐車場の駐車容量のための改修
<b>近代史体感ゾーン</b> （観音崎灯台周辺） 【幕末から明治、そして太平洋戦争終結までの近代の歴史や「海の守り」の歴史をたどるゾーン】 ・歴史的資源の紹介 ・アクセスの改善 ・海の眺望確保と休憩機能の強化	老朽化した園路の改修 【老朽化園路のすべりやすさ解消とバリアフリー化対策】				老朽化した主要園路(尾根路/海岸園路/噴水園路)の改修		
	老朽化した灯台下階段の改修 【既設階段の歩きにくさ解消と老朽化更新】				老朽化した灯台下階段の改修		
<b>草原あそびゾーン</b> （花の広場周辺） 【広大な草原と、桜や草花等にふれあえるゾーン】 ・草原でのびのび遊べる場づくり ・広がりのある地形を活かした原っぱ(花の風景)づくり ・草花や昆虫を育むためのミニファンの場づくり ・休憩機能の強化	花の広場の改修 【「桜の花見ができる広場」の整備】						花の広場を桜の花見ができる広場とするための整備
	花の広場横への駐車場の新設						花の広場横への新規駐車場の整備 ※4
<b>里山体感ゾーン</b> （森のロッジ周辺） 【人と良好な関係を築いてきた里山とふれあえるゾーン】 ・里山再生(自然ふれあい協働体験) ・自然遊び、自然体験学習機能の強化 ・安全、安心に利用できる空間の確保	果実の森周辺の広場改修 【里山体験学習の場の整備】						果実の森を改修して里山体験学習の場となる広場の整備

注1) 本スケジュール表は、設計委託から工事等までの再生（改修、整備）内容についておおよその年度計画をバーチャートで示したものです。今後、具体的詳細設計を行い、予算の状況に応じて再生を図ってまいります。

注2) 補足事項 (※1) 都市計画公園区域内にあるレストハウス周辺の公園入口機能の向上については民間企業と協議を進めます。

(※2) 「バーベキュー施設」の整備、運営方法について、具体化のための協議を行います。

(※3) 都市計画公園区域内にある「海上自衛隊管理地」については、公園区域への編入などについて調整を行います。

(※4) 草原遊びゾーンの「駐車場の新設」について、地元自治会等と協議を進めます。

## 巻末資料

### ○ 県立観音崎公園再生計画づくり専門家委員会の構成と県民参加の状況

#### 県立観音崎公園再生計画づくり 専門家委員会の構成

専門的立場で、広域的かつ長期的な視点による再生計画への助言を頂くため、以下の委員長及び委員を選任しました。

委員長		敬称略（順不同）	
分野	氏名	所属・経歴	備考
緑地計画	進士 五十八	日本学術会議環境学委員長 (社)大日本農会副会長 東京農業大学前学長	美し国づくり協会理事長。(社)日本都市計画学会長、(社)日本造園学会長、日本野外教育学会長、日本生活学会長、また政府観光政策審議会、道路審議会、河川審議会、自然再生専門家会議の委員、早稲田大学客員教授を歴任。2007年紫綬褒章受賞。

委員			
分野	氏名	所属・経歴	備考
歴史・文化遺産	山本 詔一	横須賀開国史研究会会長	浦賀文化センタースーパーバイザー、三浦半島まるごと博物館連絡会代表
造園・修景	高橋 雅雄	前日本造園修景協会神奈川県支部長	前観音崎自然博物館館長(現理事長)
自然・野生生物	大野 正人	日本自然保護協会保護プロジェクト部長	環境省野生生物保護検討会、東京都シカ保護管理計画、千葉県特定外来生物対策検討会委員
行政・自治会	高館 保	横須賀市市民部浦賀行政センター館長	地域自治、行政センター
行政・公園みどり	保坂 俊美	横須賀市土木みどり部公園建設課長	公園・みどり(三笠公園、猿島公園他)
行政・観光	小池 康夫	横須賀市経済部集客・プロモーション担当課長	経済・観光振興、集客
行政・三浦広域	湯川 晃浩	神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター企画調整部長	三浦半島広域行政
行政・事業者	鈴木 祥一	神奈川県横須賀土木事務所長	

オブザーバー			
分野	氏名	所属・経歴	備考
地元企業	千葉 肇	京浜急行電鉄環境創造本部	観音崎レストハウス所有
青少年教育	平山 豊雄	横須賀市ボーイスカウト協議会代表	当公園で森の手入れボランティア実施
自然保護団体	高橋 弘二	横須賀「水と環境」研究会代表	久里浜田浦線・万葉公園整備時トキョウサンショウウオ保護
公園ボランティア	鈴木 弘	観音崎公園「植物を守る会」	希少植物調査育成等
	安田 昭	観音崎公園「フィールドレンジャー」	公園自然・歴史ガイド等
ボランティア	野中 宏泰	悠なぎの会(観音崎にお茶を育てる会)	お茶の木寄贈、お茶ボランティア
	高野 桜子	1000年の森をつくる会	
公園指定管理者	浦野 修	横浜緑地・西武造園グループ代表	県立観音崎公園通常管理

事務局：神奈川県横須賀土木事務所 道路都市部道路都市課 道路公園班

#### 県立観音崎公園再生計画づくり 県民参加の状況

公園について共に考え行動して下さる県民の皆さんの存在は、公園再生のための大きな力となり、公園の魅力となる大きなマグネットとなるため、計画づくりの段階から広く県民の皆さんに参加を呼びかけました。そして、多くの皆さんの参加を得て、公園再生のための具体的な提案を多数頂きました。

また、客観的な県民ニーズを把握するため利用者アンケートや、公園に足を運ばれたことのない方も含む公園誘致範囲の方々への広域ウェブアンケートも実施しました。

公園利用者アンケート回答者	1,122人
ウェブアンケート回答者	300人
ワークショップ5回 延べ参加者	208人
<b>合計</b>	<b>1,630人</b>

#### ・主なヒアリング団体数 18団体

- ・鴨居地区連合町内会
- ・公園ボランティア  
(フィールドレンジャー、森の手入れボランティア、わかばの会、植物を守る会)
- ・よこすか環境懇話会
- ・京浜急行電鉄、京浜急行バス、京急ホテル
- ・観音崎自然博物館
- ・横須賀市企画調整課、観光課、公園建設課、こども青少年企画課、生涯学習課
- ・浦賀行政センター、横須賀美術館、青少年の村



専門家委員会の様子  
(3回開催)



公園利用者アンケートの様子  
(3日間開催)



ワークショップの様子  
(5回開催)

